

March 25, 1984

**Cable from Ambassador Katori to the Foreign
Minister, 'Prime Minister Visit to China
(Conversation with Chairman Deng Xiaoping)'**

Citation:

"Cable from Ambassador Katori to the Foreign Minister, 'Prime Minister Visit to China (Conversation with Chairman Deng Xiaoping)'", March 25, 1984, Wilson Center Digital Archive, 2002-113, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Obtained for CWIHP by Yutaka Kanda and translated by Ryo C. Kato.
<https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/118849>

Summary:

Deng Xiaoping and Nakasone Yasuhiro discuss how to strengthen Sino-Japanese relations, focusing in particular on the expansion of economic ties between the two countries.

Credits:

This document was made possible with support from MacArthur Foundation

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

秘密指定解除
 2174
 2172

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（TE 情報公開室 2174）に。
3. 本電の主管変更は記帳班（TEL 2172）に連絡ありたい。

電信写

Q36RA

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長

博公外査
 代表使研審

総総察人電在儀警
 審審書対文会厚情オ

調企長 審企情析調

領移長 参一二旅査移

ア 審地中東ア
 二二 難
 東 対
 参北一西

北米 審北北保
 一二

中南長 審一二

欧 審西ソ洋
 二 四
 二 東

近ア長 審一二アア
 一二

経 次 経国資漁
 審総 経国資博

審 海

協長 審政技一開
 技 二
 参国 二 理

条長 審条協規

国長 審企軍専
 参政経

科審 科 原

情 審道内文
 文
 長 参プ外二

総番号 R037811

主管

年 月 25日 21時 10分 中 国 発 亜 中
 59年 03月 25日 22時 28分 本 省 着

外務大臣殿

鹿取大使

総理訪中（トウ小平主任との会談）(注) 下線部分は、プレスリリースで発表
 言及せず

第1361号 極秘 大至急 Q36RA

往電第1350号に関し

ナカソネ総理は25日午前9時45分より約1時間半、人民大会堂フッ建庁においてトウ小平主任と会談を行なった。本件会談の内容は、1. 日中関係・経済協力関係、2. 中ソ関係及び3. トウ小平の回顧談であつたところ、その模様次のとおり。

(中ソ関係及びトウの回顧談部分別電1及び2)

(先方同席者：ゴガクケン外交部長、トウコク石油工業部長等)

トウ：総理の御訪中をかん迎する。日本訪問の際、お会いしてから5年になる。自分は、最近、し事を少なくし、健康に留意しており、コヨウホウ及びテウシヨウに第一線で働いてもらっている。今は、てんが落ちて来ても、この二人に支えてもらう。

総理とコ同志は、今回北京で、深えんな見通しのある決定をされた。日中間のながきにわたる友好関係をまず21世きにむけて、そして更に22世き23世き33世き43世きにまで続けていかななくてはならない。現在、日中間には、差し迫つた問題は内容的にはなし
 い。日中関係を21世きに向けて発展させていくことは、他の全ての問題にも増して

外務省

03月25日22時37分

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（TEL 2171, 2174）に。
3. 本電の主管変更は記帳班（TEL 2172）に連絡ありたい。

電信写

重要である。この意味からもナカソネ総理の訪中をかん迎する。

総理：中国政府及び国民のあたたかいおもてなしに心から感謝する。この好意は日本国民全てに向けられたものと受け取っている。日中両国は現在の政策を続けていくかぎり対立するものはない。日中友好関係は四原則の基礎の上に、21世きにわたり、内容的に「平」構造的なものとして、ビルト・インされているものと考えている。しかし、今後も、努力の積み重ねがかん要であり、これをおこたつてはならない。

トウ：日中関係は全般的には双方ともその発展ぶりに満足している。しかし、まだ少しばかり問題があり、その問題とは、日中関係の発展がいまだ不十分だという点である。われわれは日中関係をよりとおく、より広くみなければならない。閣下もかつて目先のことに気をとられてはならないと言われたことがあるが、よりとおく、ながく、広い目でみていくことが日中関係の発展に有利である。

総理：政府間の協力が重要であることは言うまでもないが、民間の協力というすそ野内容的に「平」を広げることも、また、非常に重要である。特に中・小企業間の広い交流が必要である。日本はASEAN諸国と多くの中・小企業交流があるが、この面での中国との交流はまだ少ない。大企業の交流も重要だが、中・小企業の広いすそ野を作っていくことがよいと思う。日本は明治維新以来、経験としてこのことをよく知っている。中国内容的に「平」側がこのための条件とかん境を作してほしい。

日本の企業家は、中国に投資することに不安をいだいており、かかる状況は好ましくない。相互信頼関係をつくるのがかん要である。この点からも、外国人の工業所有権、特許権等が保護されることが不可欠であり、中国が万国特許条約に参加されることを希望する。

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（TEL 2171, 2174）に。
3. 本電の主管変更は記帳班（TEL 2172）に連絡ありたい。

電信写

トウ：われわれは、日本の大企業及び中小企業が、中国と協力することを歓迎する。そのための条件、立法関係の問題は解決し得るものである。問題は双方が、特に企業家が長期的にもものを見ることである。

中国は今後、さらに開放政策を進めていくつもりであり、沿がん地域において、これまでよりもさらに多い地区で、現在、経済特区においてとつていっている政策をとることを検討中である。日本の企業がこれら地区での協力に参加することを歓迎する。中国としても、例えば、関係法律の整備等やるべきことは、努力していく。ナカソネ総理、安倍外務大臣からも、日本の企業家にいろいろ働きかけてほしい。

中国には地下資源等、多くのたからがあるが、資金不足で開発出来ない。将来、中国の経済が発展すれば、日本の需要をみたすという意味で、重要なものとなる。エネルギー資源、原材料、希少金属の開発は、日本にもこうけん出来ると思う。

日本の企業家の中には中国は信用を守らないと思つている人もいるようだが、中国はもつとも信用を大切にする国で、政治、経済のいずれにおいても、信用を守ることに自信をもっている。日中間のプラント問題の際も、結局、中国が責任を一手に引き受け、日本企業には損をさせなかった。

この点については、今後も安心してほしい。

総理：中国が信用出来る国であることについては全く疑いを持つていない。経済特区の制度は良いアイデアであると思う。しかし一番大切なことは、法制の整備である。

トウ：自分は経済に素人であるが、チョウ総理は経済をよく知っており、この方面を指導している。中国の全般的状況は良好であるが、問題は、今世き中に国民総生産の

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（TEL 2174）に。
3. 本電の主管変更は記帳班（TEL 2172）に連絡ありたい。

秘密指定解除

秘 2172

電信写

4倍増が実現可能か否か、結局空さわぎに終わってしまうのではないかということである。目下のところ第6次5カ年計画の実行状況から見れば、4倍増達成は可能と思われる。この問題を提起したのは、1979年に大平元総理が訪中した際、中国の四つの現代化の目標は何かとたづねられ自分も答えにきゆうして、その挙く、4倍増という考えであると述べた。従つてこのがい念は大平元首相という友人のけい発を受けて出て来たものである。

この実現のためには、毎年、総生産額を7.2%で増加させなければならない。

内容「平」

総理：われわれの経験では、経済というものは単純な数字の計算だけでは解決出来な

内容「平」

い難しい問題がある。大切なことは、工場を作ることよりも、経営管理をしつかりと

やること、即ち、ソフト・ウェアがかん要である。

トウ：中国は今世末までを80年代と90年代の10年に分け、前の10年は毎年平均6.5%増を目標にし、後の10年の準備段階として、エネルギー、交通、原材料及びち力の四つの分野での開発に力を入れる。そのためには、資金が必要であるが、中国は資金不足に直面しており、他に方法もないので、対外開放政策を実行している。日本政府から貴重な経済協力をいただいているが、中国の必要からみれば余りにも少ない。米国の企業が海南島付近のてん然ガスを利用して化学ひ料工場を作ろうという話があるが、日本の企業も、もつと大たんに投資をしてほしい。中国において法制が完備されていないというのは一時的なもので、次第にこおいう面は改善出来る。日本の投資家が、法制が完備されるまで待つということのないよう長期的視野から考えるよう総理からもよろしくお伝え願いたい。

総理：日本政府としては、今後、さらに努力するし、民間の方に話しもする。しかし

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（TEL 2171, 2174）に。
3. 本電の主管変更は記帳班（TEL 2172）に連絡ありたい。

電信写

、中国は大きな国であるから政府間の協力は、大海にひしやくで水を入れるようなものであつて、重要なことは、民間の協力に途をつけること、流れをつくることである
と思う。民間の協力においては、すそ野を広げるという意味からも、また、雇用機会を増やすという点でも中・小企業の協力を拡大していくことが非常に大切である。

（この後、トウ主任から中国における雇用問題につき若干説明があつた。）

上海に転電願いたい。（了）

Number R037811

Primary: Asia and China

Sent: China 21:10 Year Month 25

Received: MOFA 22:28 1984 March 25

To: The Foreign Minister From: Ambassador Katori

Prime Minister Visit to China (Conversation with Chairman Deng Xiaoping)□

Do not cite underlined in press release

Number 1361 Top Secret Top Urgent Q36RA

Regarding Wire 1350

Prime Minister Nakasone had a conversation with Chairman Deng Xiaoping at the Great Hall of the People on the 25th at 9:45am for approximately an hour and a half. The primary topics of conversation were: 1. Japan-China relations and economic cooperation relations; 2. Sino-Soviet Relations; 3. Retrospection by Deng Xiaoping.

(Sino-Soviet relations and retrospection by Deng Xiaoping in Separate Wire 1 and 2)

(Additional Chinese individuals in attendance: Foreign Minister Wu Xueqian, Petroleum Industry Minister Tang Ke, among others)

Deng: I thank the Prime Minister for visiting China. It has been 5 years since meeting you in Japan. Lately, I have lessened my work to concentrate on my health. I have Hu Yaobang and Zhao Ziyang working for me at the frontlines. When the sky may come tumbling down, these two will support me.

The Prime Minister and Comrade Hu have come to a decision in Beijing with much foresight. The historical friendly relations between Japan and China must continue onto the 21st century, and then to the 22nd, 23rd, 33rd, and 43rd century. Currently, Japan and China does not have urgent problems. The development of Japan-China relations into the 21st century is more important than all other issues. In this regard, I thank Prime Minister Nakasone's meaningful visit to China.

Prime Minister: I thank from the bottom of my heart the Chinese government and people's hospitality. I interpret this good will as being intended for all Japanese citizens. As long as Japan and China continue with current policies, there are no reasons for conflict. I believe that a friendly relation between Japan and China, one that lasts into the 21st century, is structurally built into the 4 Principles. However, the accumulation of effort is essential and cannot be neglected.

Deng: We are mutually satisfied with the overall development of Japan-China relations. There are, however, some small problems, the problem being that Japan-China relations have not fully developed. We must see Japan-China relations from a wider and more long-term perspective. Your excellence has previously mentioned that we must not be caught up with what is immediately in front of us. However, looking even further, longer, and wider is advantageous for the development of Japan-China relations.

Prime Minister: It goes without saying that cooperation between governments is important, but widening the scope of private cooperation is also extremely important. Wide exchange between Small and Medium sized corporations is especially necessary. Japan has many small and medium sized corporation exchanges with ASEAN states, but not so much with China. Exchange between large corporations is

important, but it is important to first create a wide foundation with small and medium sized corporation. Japan has learned very much in this respect since the Meiji Restoration. We want China to create opportunities and an environment for this sort of exchange.

Japanese entrepreneurs are uneasy about investing in China, and so the given circumstances are not favorable. It is important to create a relationship of mutual trust. Given that the protection of foreigner's industrial intellectual property and patents is essential, we hope that China will participate in the Paris Treaty.

Deng: We welcome Japan's large and small-medium sized corporations cooperating with China. We will solve the legal problems and meet other requirements for such a thing. The important thing is for the two sides, particularly entrepreneurs, to take a long-term perspective to these matters.

Hence forth, China will pursue development policies further. We are currently considering the establishment of even more special economic zones along the coastal region. We welcome the participation of Japanese corporations in these zones. China will also endeavor to maintain and prepare related laws. We want Prime Minister Nakasone and Foreign Minister Abe to encourage Japanese entrepreneurs, as well.

China has an abundance of underground resources, but does not have the funds to develop them. If the Chinese economy develops, these resources will be an important in meeting Japanese demands in the future. I believe that the development of energy resources, raw materials, and rare minerals can contribute to Japan.

It seems that some Japanese entrepreneurs do not believe that China will keep its promises. However, China is a country that greatly values promises. In terms of both politics and economics, I am confident in our ability to keep promises. During the disagreement over the plant, China took full responsibility and made sure that Japanese corporations did not take a loss.

We want you to feel assured regarding this point.

Prime Minister: I have absolutely no doubt that China is a country that keeps its promises. I believe that the special economic zone policy is a find idea. However, the preparation for legal matters is the most important point.

Deng: I am a complete novice regarding the economy, but Premier Zhao knows the economics well, and he is taking the lead in this regard. The overall circumstances in China are favorable, however, the issue is whether a 4-fold increase in gross national product is actually possible or not. That is, will it ultimately end as just much ado about nothing. At the moment, judging by the state of the 6th 5 year plan, 4-fold increase is believed to be possible. This issue was raised during former Prime Minister Ohira's visit in 1979 when he asked what China's goal for the 4 Modernizations was. I was pressed for an answer and so answered that we are thinking about a 4-fold increase. Therefore, this idea arose with inspiration from our friend the former Prime Minister Ohira.

To realize this goal, we must grow the GNP by 7.2% every year.

Prime Minister: From our experience, the economy is a difficult problem that cannot be solved with simple equations of numbers. More than building factories, the important thing is to effectively manage businesses. Therefore, it is a software issue.

Deng: China has divided the time until the 21st century into decades, the 1980s and the 1990s. It is our goal to attain on average a 6.5% increase during the former decade, and, in preparation for the latter decade, to concentrate on the development of energy, logistics, raw materials, and knowledge. Finances are necessary for this, but China is facing financial insufficiency. Because there are no other ways, China is pursuing a policy of seeking foreign investments. We are currently receiving very important economic cooperation from the Japanese Government, but considering China's needs it is very small. An American company is discussing the possibility of establishing a chemical fertilizer plant using natural gas from near Hainan Island. We want Japanese companies to also make daring investments. The unpreparedness of the Chinese legal system is a momentary issue, it can be reformed if given time. We hope for the Prime Minister to convey to Japanese investors to have a long-term perspective and to not wait until the laws are completely prepared.

Prime Minister: The Japanese Government will continue with its efforts and will also speak with the private sector. However, given that China is a large country, cooperation between governments is only a drop in the bucket. The important thing is to create a path and flow for private cooperation. Regarding private cooperation, it is extremely important to increase cooperation between small and medium sized corporations, both in terms of expanding a foundation and increasing employment opportunities.

(Afterward, Chairman Deng provided some explanation of China's employment situation)

Please forward to Shanghai. (End)